

道央・道南に適した、多収で病害に強いあずき「きたあすか」

(平成22年育成、旧系統名:「十育155号」)

〈道央以南の転換畑地帯の小豆栽培〉

- 茎疫病など土壌病害の被害
- 夏季が高温なため小粒で色が濃い
- 冷害の被害を受けにくいいため、北海道全体の小豆安定生産における重要性は高い



【きたあすかの主な特性】

生産と品質の安定

- 多収である
- 粒が大きく、調製歩留まりが高い
- 落葉病(レ-ス1)、茎疫病(レ-ス1,3) 抵抗性



長茎で、茎の上部が蔓化することがあるが倒伏や収穫への支障は見られていない

主な農業特性 (平成18~21年の平均)

試験場所	品種名 または 系統名	成熟 期 (月日)	倒 伏	主茎 長 (cm)	子実 重 (%)	百粒 重 (g)	品質 (等級)
中央・ 道南農試	きたあすか	9.8	少	65	108	16.1	3上
	エリモショウス	9.9	少	57	100	13.2	3上
	しゅまり	9.8	少	59	94	12.6	3中
十勝農試	きたあすか	9.27	多	96	110	18.8	4中
	エリモショウス	9.24	中	73	100	14.6	3中
	しゅまり	9.23	中	78	94	15.0	4上

【道央・道南では...】

成熟期は同等、主茎は長いが倒伏は変わらず、外観品質は同等以上

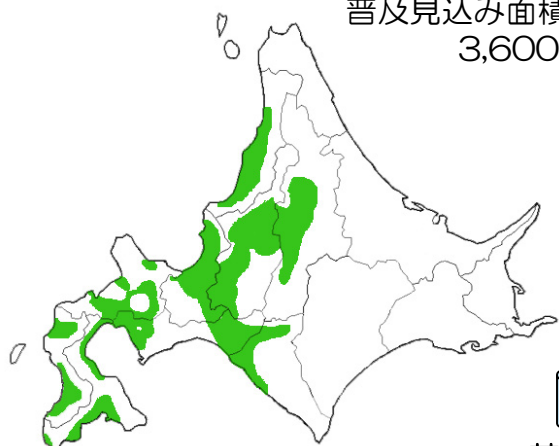
【道東(十勝)では...】

成熟期は遅く、倒伏が多く、外観品質は劣る

普及態度

道央以南の温暖な地域(地図参照)を中心として、エリモショウス等の一部に置き換えて普及する

普及見込み面積：
3,600ha



種皮色が明るいため、道東では“色浅”として等級が落ちるが、道央・道南では優る場合が多い



栽培上の注意

落葉病(レ-ス1)、茎疫病(レ-ス1,3)に抵抗性を持つが、栽培にあたっては適正な輪作を守る